

## 様式 C-19

# 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 11 月 5 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009 年度～2011 年度

課題番号：21402023

研究課題名（和文） 市場経済形成期における村落の共同性の日欧比較研究

研究課題名（英文） Comparative Study of Japanese and European Village Community in the making process of Market Economy

### 研究代表者

長谷部 弘（HASEBE HIROSHI）

東北大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：50164835

### 研究成果の概要（和文）：

本研究では、17～19 世紀近世日本における村落社会（長野県上塩尻村ほか）を基準として、16～18 世紀におけるイングランド村落社会（ケンブリッジシャー）と北西ドイツ村落社会（東部北海沿岸地方）とについて、現地の研究者の協力を得て、実証的比較研究を行った。近世日本村落を構成した共同性の重層的構造からみると、16～18 世紀の英独両農村社会の事例については、史料制約性による直接比較の困難性があり、従来共同体とされてきた「村落」や「家族」についての再解釈が必要であり、従来親族ネットワークやサーバント制度、そしてマルク共同体等土地共有共同体の再検討が必要であることが確認された。

研究成果の概要（英文）：This project was the historiographical study that compared the village structure of England and northwest Germany in 16-18 centuries with the village structure of Japan in 17-19 centuries. The criteria model of comparing was the monographic work of Kami-Shiojiri village in Japan. This study resulted as follows; firstly, it is the serious problem that the shortage of historical materials restricted our fact-finding work and interfered to access the detailed actual situation of rural communities in England in northwest Germany. Secondly, the historical social systems and organizations, such as "village" or "mark community" had been considered as communities for a long time, were not actually the communal system I themselves. It is necessary to confirm these conceptions by the re-examination of historical materials such as "family." There are many important subjects to be resolved such as "relative network" and "servant system" in early modern England and "irrigation association" in northwest Germany.

### 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	6,600,000	1,980,000	8,580,000
2010 年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2011 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
年度			
年度			
総計	14,500,000	4,350,000	18,850,000

研究分野：日本経済史

科研費の分科・細目：経済学、経済史

キーワード：村落共同体、共同性、家と村、イギリス農村、ドイツ農村

## 1. 研究開始当初の背景

市場経済形成期の「村落共同体」は、経済史の研究史上、「遺制」として取り扱われることが多く、また否定的に扱われたり消滅する存在として無視されたりしてきた。しかし、われわれが研究開始前までに行ってきた研究成果によれば、その実態は、市場経済の展開と共に機能・形態を変じ、しばしば人々の市場活動に適合するものでもあった。われわれは、これまで所有論や水利論から論じられてきた「村落共同体」像は、新たな視点から、歴史的経験研究に即して描き直されなければならないと判断した。

本研究を含む研究構想の全体は、すでに研究代表者（長谷部）が実施した日本、イギリス、インドネシア（バリ州）の3社会にわたる市場経済形成期各種コミュニティ組織のpプレ実態調査分析（「市場経済形成期におけるコミュニティ組織の存在形態」、科研費平成13年企画調査・平成14～16年基盤研究B）の成果に着想を得たものであり、市場経済形成期における日本＝西欧＝アジアの村落の共同性の構造と性格とを比較・再検討する、という大きな内容を持たせたものである。そのプロジェクトの第一段階は、日本における複数の近世村落を市場経済化との関わりで実態分析し、比較分析のための準拠枠と基準モデルの確定を企図した。そこでは、日本の市場経済形成期にあたる近世後期から近代初期（18世紀後半～明治初期）の時期における村落社会内部の共同性を構成する多層構造基準モデルを仮説的に設計し、上塩尻村（長野県上田市）のインテンシヴなモノグラフ調査研究を行い、一定の成果と見通しを得た「市場経済形成期日本における村落の共同性の実証研究」、科研費平成18～20年基盤研究(B)。それが本研究を開始する背景をなしている。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、近代社会の成立とともに解体したとされてきた「村落共同体」について、その市場経済形成期の存在形態を日本の事例を基準に西欧と比較してみようとするところにあった。この試みは、上述のプロジェクトの第二段階に相当するものであり、従来個人主義的な傾向が強く共同性が薄弱であるとみなされてきた近世イングランドの村落社会や、逆に共同性が堅固であるとされてきた近世期北部ドイツ村落社会のあり方について、日本の村落の共同性に着目しながら実証的に比較研究しようとするものであった。

## 3. 研究の方法

研究は、1)すでにわれわれが一連の研究の成果として提示した日本の「村落の共同性」の構造を比較分析のための基準として普遍化すること、2)それを準拠枠＝基準としながら、近世から近代にかけての西欧諸国（本研究ではイギリスとドイツ）における村落の共同性の構造・性格を歴史具体的な地域分析によって再検討すること、3)その結果に依拠しながら、市場経済形成期における日・欧の村落の共同性の同質性と異質性を比較研究すること、の3つの平行する作業ラインとして計画し実施した。日本の事例研究については、上述の上塩尻村について、天保の凶作という危機的事態に対処する際に見えてくる村落の共同性の側面に着目して、〈準拠枠〉の整備に務めた。

## 4. 研究成果

日本の村落内諸組織の多層構造を比較基準として、イングランドとドイツ西北部西欧諸地域の村落の共同性の構造的特性が鮮明となり、従来の統一的共同体論では不可視であった市場経済形成期の村落の共同性の多様な実態を解明する従来個人主義的な傾向が強く共同性が薄弱であるとみなされてきた近世イングランドの村落社会や、逆に共同性が堅固であるとされてきた近世期ドイツ村落社会の実態が、実は、それらの立論の根拠になった英国の「村落」、ドイツの「マルク共同体」、両者に共通の「家族」といった基礎的な社会制度や組織は、史的に再検討が必要なものであった、という事実が確認できた。今後、市場経済化や地域の諸条件を考慮しながら、親族ネットワーク、奉公人、水利組合等の実態を明らかにしていくことが課題として残されている。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

### 【雑誌論文】（計8件）

1) 長谷部弘、「家」を比較研究する視点、『国際比較研究』、(査読有)、第8巻、2012年、195-202頁。

2) 平井進、18・19世紀前半北西ドイツ北海沿岸地方の領邦官吏と自治組織役職者：Landschaft Süderdithmarschen、『国際比較研究』、(査読有)、第8巻、2012年、57-85頁。

3) 長谷部弘、「家」を比較研究するための覚え書き—経済史研究の視点から—、東北学院

大学『経済学論集』(査読無)第177号、2011、pp. 313-321。

4) 長谷部弘、共同性の歴史的意味、近世史サマーフォーラム2010 実行委員会編『村落研究と歴史学—問題意識の共有と再発見—』(査読無)、pp. 1-18。

5) 高橋基泰、日英村落史的対比研究方法論・2011、東北学院大学『経済学論集』(査読無)第177号、2011、pp. 259-276。

6) 平井進、19世紀ドイツの農村ゲマインデ制と政治参加資格：北西ドイツ・ハノーファーを中心に、Discussion Paper Series (Otaru University of Commerce) (査読無)第124巻、2010、pp. 1-37。

7) 長谷部弘、近世日本における「家」の継承と相続、比較家族史学会『家の存続戦略と婚姻』特集論文集、2009、査読有、pp. 52-70。

8) 高橋基泰、近世英国農民の「家」存続—ケンブリッジ州ウィリンガム教区の事例から、比較家族史学会『家の存続戦略と婚姻』特集論文集、2009、査読有、pp. 179-197。

#### 【学会発表】(計20件)

1) Hiroshi HASEBE, *Some Comments for the Comparative Study of the Ie, From an Economic History Perspective*, International joint seminar "Finding 'Ie' in Western Society", 20th February, 2012, Queens' College, Cambridge University, U.K. and international workshop, 'Family, Property and markets' University of Muenster, February 22, 2012, Germany.

2) Motoyasu Takahashi, *Genealogy of Servants in the Transition to the Market Economy: the comparative study of the early modern labour market in the rural areas in Japan and England*, international joint seminar "Finding 'Ie' in Western Society", 20th February, 2012, Queens' College, Cambridge University, U.K., and International workshop, 'Family, Property and markets' University of Muenster, February 22, 2012. Germany.

3) Futoshi YAMAUCHI, *A discussion on family property*, International joint seminar "Finding 'Ie' in Western Society", 20th February, 2012, Queens' College, Cambridge University, U.K. and international workshop, 'Family, Property and markets' University of Muenster, February 22, 2012, Germany.

4) 長谷部弘、家連合と同族・姻戚関係—佐藤(藤本)マケを事例として、日本村落研究学会第59回大会、2011年10月29日、於熊本県小国町。

5) 高橋基泰、家系譜および宗門改帳にみる同族と姻戚、日本村落研究学会第59回大会、2011年10月29日、於熊本県小国町。

6) 山内太、蚕種商人の家継承と同族・姻戚、日本村落研究学会第59回大会、2011年10月29日、於熊本県小国町。

7) 長谷部弘、上塩尻村の凶作と飢饉、TCRCコンファレンス「制度・組織と経済発展」、2011年1月29日(土)、於東京大学

8) 長谷部弘、農村社会の市場経済化と凶作対応—上塩尻村の事例報告—、第17回社会経済史学会東北部会、2010年12月11日、於東北大学。

9) 村山良之、天保凶作の地理学的背景、第17回社会経済史学会東北部会、2010年12月11日、於東北大学。

10) 高橋基泰、人口と同族の構造と動態、第17回社会経済史学会東北部会、2010年12月11日、於東北大学。

11) 山内太、天保期上塩尻村の農業構造と凶作、第17回社会経済史学会東北部会、2010年12月11日、於東北大学。

12) 長谷部弘、共同性の歴史的意味—日本経済史からみた近世と近代、近世史サマーフォーラム2010、2010年10月16日、於大阪市立弁天町市民学習センター。

13) Hiroshi HASEBE, *Famine, crises and mutual-aid in the Kami-Shiojiri Village: the analysis of survival movement against the Famine*, Rural History 2010, international conference at the University of Sussex, UK. 15 September 2010.

14) 長谷部弘、天保の飢饉と村落社会—上田藩上塩尻村における天保の凶作・飢饉の事例研究—、2010年6月20日、於関西学院大学

15) Hiroshi HASEBE, *Growth of Rural Trading and Ie Business in the Tokugawa Japan, structural features of the DohzokuDan kinship Ie group community*, ESSHC 2010, Ghent, Belgium, 15 April 2010.

16) Motoyasu Takahashi, *Family name and family continuity in Kamishiojiri Village, Ueda, Nagano; in the context of kin relationships in Kami-shiojiri, Nagano, Japan, ESSHC 2010*, Ghent, Belgium, 15 April 2010.

17) 長谷部弘、同族団における共同性の構造－信州上田松平氏領上塩尻村佐藤一族の事例を中心にして、第 57 回日本村落研究学会大会、2009 年 11 月 1 日、於綾部市。

18) 高橋基泰、相続・世代継承における同族の機能・役割－旧上田藩上塩尻村の事例から、第 57 回日本村落研究学会大会、2009 年 11 月 1 日、於綾部市。

19) 山内太、資金融通と同族－原マケを中心に、第 57 回日本村落研究学会大会、2009 年 11 月 1 日、於綾部市。

20) 平井進、19 世紀ドイツの農村ゲマインデと家屋・土地保有、農村社会史研究会、2009 年 6 月 12 日、於東京学士会館。

#### 〔図書〕(計 2 件)

長谷部弘・高橋基泰・山内太編著、飢饉・市場経済・村落社会、一天保の凶作からみた上塩尻村、刀水書房、2010 年、140 頁

柘植徳雄、西欧資本主義国の共生農業システム－イギリスを中心にみた共生原理と農業の関係－、農林統計協会、2010 年、288+vi 頁

#### 〔その他〕

ホームページ等

「市場と共同性研究会 HP」

<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~hhasebe/publison/index.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

長谷部 弘 (HASEBE HIROSHI)  
東北大学・大学院経済学研究科・教授  
研究者番号：50164835

### (2) 研究分担者

高橋 基泰 (TAKAHASHI MOTOYASU)  
愛媛大学・法文学部・教授  
研究者番号：20261480

### (3) 連携研究者

平井 進 (HIRAI SUSUMU)  
小樽商科大学・商学部・教授  
研究者番号：30301964  
山内 太 (YAMAUCHI FUTOSHI)  
京都産業大学・経済学部・教授  
研究者番号：70271856  
柘植 徳雄 (TSUGE NORIO)  
東北大学・大学院経済学研究科・教授  
研究者番号：80281955  
佐藤 康行 (SATOU YASUYUKI)  
新潟大学・人文社会教育科学系・教授  
研究者番号：40170790  
村山 良之 (MURAYAMA YOSHIYUKI)  
山形大学・教育実践研究科・教授  
研究者番号 (10210072)